

令和2年度 学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立亀山東小学校

I めざす子ども像

「わくわく なるほど すっきり」
～対話を通して、自分の考えを広げ深める子の育成～

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

<学力に関して>令和元年全国学力学習状況調査より学力の二極化がみられる。国語・算数ともに正答率が全国平均より多い児童の割合、少ない児童の割合がともに多く、中間層がないという学力の二極化が課題である。
正答率:国語63%(全国63.8%)
算数66%(# 66.6%)

国語 ★情報を相手にわかりやすく伝えるための工夫や、目的に応じて文章の内容を的確にとらえ、★自分の考えを明確にしながら読み取る問題に課題あり。

算数 面積を★求める方法を効果的に説明することや、★見つけた法則を他者にわかりやすく説明する力を問う問題で、個々の差が大きく課題がある。

<学習・生活の状況に関して>
全国学調の質問紙調査より
・以下の項目で良い結果を得ている。
「学校に行くのが楽しい」「学校のきまりを守っている」「図書館を利用」「ICT 機器を利用」「地域行事に参加」
→落ち着いた学校生活が送れている。
日常的に図書館やICT 機器を活用している。
地域の行事に子どもが参加しやすい環境あり。
・以下の項目は全国の結果を下回る。
「同じ時間に寝る」「難しいことも挑戦する」「人が困っているときに助ける」「学習したことを日常生活で生かす」
→不規則な生活をする児童が多い。学習に受け身である。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>
・学習内容の理解定着を進め、基礎基本の向上を目指す。
・新要領に沿った学力を育むために、授業改善を進める。
(主体的に取り組める課題の設定、対話的な活動による学びの可視化、★単元を通したふり返りの実施と充実)
・「聞いて(考えて)話す、読んで(考えて)書く」ことで、「聞く・話す・読む・書く」の言語の4機能を鍛錬する。

<学習・生活の状況に関して>
・安心して学び合える学級づくり
・読書機会の増加
・生活習慣の向上と家庭学習時間の増加
・補充学習機会の設定
・学校全体での活用力をつける学びへの取組

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>
みえスタや学力調査の結果分析と課題共有
・全教職員で結果分析を行い、求められている力や、課題を把握し、低学年から共通指導事項の徹底を図る。
授業改善
・右記項目＝組織的に取り組む学校体制の確立に記載する【 】の内容視点で取り組む。
安心して学び合える集団づくり
・QUや仲間づくりアンケートを活用し、児童理解や学級づくりに関する取り組みを進める。

<組織的に取り組む学校体制の確立>
・補充学習の日を設定、基礎基本の定着を図る。
・実践的なOJT研修を学校全体で進める。
・児童が、学びの深まりや学びによる自らの変容がわかるように、具体的なふり返りの視点を設定する。
・亀山東小の授業(学び)スタイルを徹底する。
・研究授業を検証場面に、次の視点で授業を改善する。
【★主体的に取り組める課題の設定 わくわく】
【★対話的な活動を通じた学びの可視化 なるほど】
【★(単元全体を含めた)ふり返りの充実 すっきり】

<指導力を高める研修の推進>
・対話を中心とした授業研究(聞き手を育てる対話、目的ある対話、発達段階に応じた対話、表現を豊かにする語彙)
・安心して学び合える集団づくり 人権教育の推進
＝児童の「自己有用感」「自己肯定感」を育てる。5つの約束
・全国学力・学習状況調査問題の結果分析と課題共有
＝結果検証により共通指導事項の徹底を図る。
・市教委作成「国語確認テスト」の活用研究
・評価活動の研究(新たな観点別評価、外国語、道徳)

<家庭・地域との連携の強化>
家庭との連携
・みえスタ・全国学調から把握した課題を家庭と共有する。
・家庭学習の手引きを配付し、「いえ学」の充実を図る。
地域との連携
・地域の歴史、文化、人材を活用した学習を積極的に行う。
・地域をフィールドとした学習による体験活動の充実を図り、学びの意欲の向上につなげる。
・「亀山大市を場面とした“起業教育”」に取り組む。